

■10月25日

福岡空港、運営権、民間に売却する方向で検討、売却額1200億円超

福岡県と福岡市は、福岡空港の運営権を民間事業者に売却する方向で検討に入った。旅客数で国内4位の福岡空港の民営化が実現すれば、少なくとも売却額1200億円を超える大型案件に発展する可能性がある。事情に詳しい複数の関係者が明らかにした。ロイターが報じた。

空港ターミナルを運営する福岡空港ビルディングに出資する福岡県と福岡市が主体となり、福岡空港の運営権売却に関する協議を始めた。両自治体の方針決定を受け、空港ビルのほか、国が所有する福岡空港の滑走路と一体的に民間事業者へ売却する具体的な方法をまとめるもようだ。

(ロイター)10/24

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MV5IH6K50YN01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MV5IH6K50YN01.html>)

成田空港、2013年、冬スケジュール (RVSD)

NAAは24日、成田国際空港の2013年冬スケジュール(2013年10月27日～2014年3月29日)を発表した。それによると、国際線旅客便の週間便数は前年比21便増(今夏比17便増)の1436便となった。

トラベルビジョンのまとめによると、国際線の便数増の要因は、新規就航はチェジュ航空の14便とトランスアジア航空の7便、増便では全日空の11便増、日航の14便増、エバー航空の4便増、エティハド航空の2便増、S7航空の2便増、ニューギニア航空の1便増。

便数減では、デルタ航空や大韓航空、ウラジオストク航空のほか、エジプト航空、ウズベキスタン航空、トランスアエロ航空が運休し、香港航空も撤退。エアアジア・ジャパンも運航を停止する。

* 太線部分を訂正しています。

(トラベルビジョン)10/24

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59334> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59334>)

(NAAプレスリリース)10/24

<http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131024-winter%20schedule.pdf> (-> <http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131024-winter%20schedule.pdf>)

(日刊航空)10/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

成田空港、乗継旅客への「おもてなし」サービス好評-ラウンジサービス、タクシー観光

成田国際空港会社(NAA)が今年12月末まで乗り継ぎ客向けに始めた「おもてなし」サービスが好調だ。ターミナルビル内に休息スペースを備えた専用ラウンジを設置し、タクシーを使う空港周辺観光をNAAがコストを負担して無料で提供するもので、利用者数が順調に推移している。これを受けNAAでは、期間を限定せず、通常サービスとして実施することも検討中だ。

日経によると、サービスの対象となるのは入国ビザを持つか、入国ビザ免除国・地域からの乗り継ぎ旅客。ラウンジは今月11日、第1ターミナルビルと第2ターミナルビルに設置した。台風で閉鎖した日をのぞき、22日までに計約150人が利用した。ラウンジではコンシェルジュが希望を聞いてサービスを無料で提供しており、期間中、3000人の利用を見込む。

タクシー会社の千葉交タクシーが実施する空港周辺の酒蔵などを巡るツアー(平均1万円相当)も無償で提供。これまで20組が利用した。

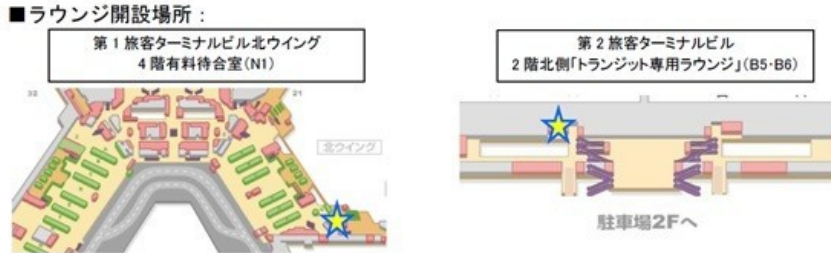
(日経)10/24

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO61529790T21C13A0L71000/> (-><http://www.nikkei.com/article/DGXNZO61529790T21C13A0L71000/>)

(NAAプレスリリース)10/24

<http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131009-omotenashi.pdf> (-> <http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131009-omotenashi.pdf>)

*出典: NAA



日航、植木社長、羽田発着枠問題、国交省回答不十分な場合、行政訴訟も選択肢

(ロイターによると)

日本航空の植木義晴社長は、羽田空港の国際線発着枠をANAホールディングスに傾斜配分した判断に対し、国土交通省に是正と説明を求めている問題で、国交省からの回答が不十分だった場合、行政訴訟も選択肢の一つになるとの認識を示した。24日、ロイターとのインタビューで語った。

国交省は今月2日、来春増加する羽田空港の国際線発着枠のうち、国内航空会社向けの16枠について、ANAに11枠、JALに5枠を配分すると決定。根拠として、JALの再建に対する考え方をまとめた昨年8月の文書でJALの新規路線の開設は抑制的に判断することになっていた、と説明した。

JALは4日、この結果を不服とし、国交省に対して合理的な説明と内容の是正を申し入れた。植木社長は同日の会見で、国交省からの回答によっては「次のステップを考えざるを得ないケースもある」としつつ、具体的な内容については明言を避けていた。

今回、植木社長は「結果を求めて何らかのアクションを起こす時もあるし、結果は別に、主張することを主張しないといけない時もある」と説明。国交省からの回答が不十分だった場合に行政訴訟を選択肢とするかについては「そういう可能性も次のステップの一つに含まれていると考えていい」と語った。

植木社長は、国交省との議論で「新規路線とは、どの空港の、どの時間帯に適用されるのか。抑制的とはなにを意味するのか、こういったところを明確にしていきたい」と述べた。本来、来年4月以降のダイヤを計画する時期だが、そうしたところが明確でないために、弊害も出始めているという。

(ロイター)10/24

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE99N06W20131024> (-><http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE99N06W20131024>)

三沢空港、台湾から初のチャーター便

エバー航空は24日、台湾からのチャーター便としては初めて三沢空港に到着した。

同社のチャーター便は24日と27日、三沢—台北間で1往復ずつ計4便運航される。折り返し便には種市一正・三沢市長ら約150人が搭乗した。同市は東日本大震災後に台北市の民間団体から寄付金を受けたことから、市長らは関係機関に表敬訪問する。

(読売新聞)10/25

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/aomori/news/20131024-OYT8T01383.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/aomori/news/20131024-OYT8T01383.htm>)

全日空、仙台—札幌線、早期割引率大幅値下げ

全日空 (-> <http://www.asahi.com/topics/word/%E5%85%A8%E6%97%A5%E7%A9%BA.html>) は24日、仙台—札幌便の今年12月～来年1月の早期割引運賃の追加変更を行い、最大で半額以下に値下げすると発表した。搭乗率が65%程度とふるわないため、値下げで需要喚起をねらう。

搭乗60日前までの予約「旅割60」は一律8800円、45日前までの「旅割45」は一律9800円とし、いずれも最大で1万1200円安く設定した。(今月25日以降の購入対象、12月27日～1月5日の便は対象外)

朝日新聞によると、全日空は、冬季の仙台—札幌便は特に観光客が少なく、搭乗率が下がり気味であり、仙台支店は「値下げで先々の需要を取り込みたい」意向だ。なお同路線は現在、日航とスカイマークも運航を行っている。

(朝日新聞)10/25

<http://www.asahi.com/articles/TKY201310240394.html> (-> <http://www.asahi.com/articles/TKY201310240394.html>)

(ANAプレスリリース)10/24

<http://www.ana.co.jp/topics/applicablefare/> (-> <http://www.ana.co.jp/topics/applicablefare/>)

マレーシア航空、成田—コタキナバル線就航、10月28日より週3便

マレーシア航空は24日、10月28日より、成田—タキナバル線を週3便(月・木・土)で就航すると発表した。使用機材はボーイング737-800型(座席数ビジネスクラス16席/エコノミークラス144席、計160席)。

(NAAプレスリリース)10/24

<http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131024-malaysia.pdf> (-> <http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131024-malaysia.pdf>)

トルコ航空、成田—イスタンブール線増便、ダブルデイリーへ

トルコ航空は24日、2013年11月4日より成田—イスタンブール線の夜便(成田発2230/イスタンブール着0420)を新規就航すると発表した。この増便により、同路線は現在の週7便から週14便運航することになる。

使用機材は、昼間の便のTK51便はボーイング777-300ER(ビジネス、プレミアムエコノミー、エコノミーの3クラス)。増便される夜便のTK53便はエアバスA330-200(ビジネス、エコノミーの2クラス)。

(NAAプレスリリース)10/24

<http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131024-turkish.pdf> (-> <http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131024-turkish.pdf>)

韓国、国内線、LCCシェア48%へ

(yonhapnewsによると)

韓国国土交通部は24日、1～9月の格安航空会社(LCC)の旅客数は計1168万人で、前年同期比21.1%増加したと明らかにした。

国内線が802万人で13.4%増加。航空会社全体に占めるシェアは48%となった。

国際線は366万人で42.0%増加し、シェアは9.5%。格安航空会社が13万人以上を運んだ路線では、仁川—香港線を覗いて仁川—グアム線(シェア51.8%)、金海—福岡線(同52.7%)など全路線のシェアが伸びた

(yonhapnews)10/24

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/10/24/0200000000AJP20131024000300882.HTML> (->

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/10/24/0200000000AJP20131024000300882.HTML>)

韓国、旅行会社に宣伝費支援、減少する日本人観光客誘致強化

韓国文化体育観光省は、訪韓日本人観光客の減少を受け、日本人客誘致のための宣伝費用として旅行業者に計約1

0億ウォン(約9200万円)の緊急支援を行うことを決めた。

産経ニュースによると、韓国法務省によると、今年1～9月に韓国を訪問した日本人は約204万人で、前年同期の4分の3に急減した。円安の影響に加え、歴史認識問題などをめぐる日韓の政治的な摩擦、北朝鮮の挑発による緊張などが背景とみられる。

緊急支援の対象は、2011～12年に年間千人以上の日本人観光客の誘致実績があり、今年に入り誘致した人数が減少した業者。広告費などとして1社当たり最大3千万ウォンを支給する。

(産経ニュース)10/24

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/131024/kor13102413400004-n1.htm> (->
<http://sankei.jp.msn.com/world/news/131024/kor13102413400004-n1.htm>)

ジェット・エアウエイズ、第2四半期決算、過去最高の赤字

インドのジェット・エアウエイズが23日発表した7-9月期(第2四半期)決算は、四半期として過去最高の3四半期連続の赤字となった。ジェット燃料価格の上昇や、市場の低迷、経費増、ルピー安などさまざまな要因から打撃を受けた。

7-9月期純損益は89億1000万ルピー(約140億円)の赤字。前年同期は9億9670万ルピーの赤字だった。

(WSJ)10/24

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304523904579155053985187152.html> (->
<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304523904579155053985187152.html>)

大韓航空、第2四半期決算、営業利益、前年同月比43.2%減

大韓航空が24日に発表した7—9月期の連結営業利益は1601億ウォン(約147億円)となり、前年同期比で43.2%ゲン少した。売上高は3.4%減の3兆1833億ウォン、当期純利益は前年と同水準の3415億ウォンだった。

旅客部門の輸送量が2%減少した。韓国発の輸送は5%増加したが、日本路線の需要が落ちた影響などで海外発の輸送は6%減少した。

(yonhapnews)10/24

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/economy/2013/10/24/0500000000AJP20131024003900882.HTML> (->
<http://japanese.yonhapnews.co.kr/economy/2013/10/24/0500000000AJP20131024003900882.HTML>)

(->)

大韓航空、ボーイング787を追加発注

大韓航空は24日、2018年までにボーイング787を1機追加し、12機の航空機を導入すると発表した。同社は、今年6月にボーイング社とボーイング747と777の計11機購入に関する覚書を交わしている。

同社の9月末時点の保有機数は147機で、創立50周年を迎える2019年までに約200機に増やす方針だ。

(yonhapnews)10/24

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/economy/2013/10/24/0500000000AJP20131024004000882.HTML> (->
<http://japanese.yonhapnews.co.kr/economy/2013/10/24/0500000000AJP20131024004000882.HTML>)

仁川空港公社統計、日韓線LCCシェアは20%

仁川国際空港公社の統計によると、2013年上半期に日本～韓国間の航空渡航者数は548万人で、このうち20%にあたる110万人がLCCによるものと分析した。

2012 年上半期の日韓線LCC利用者は59万4,000 人で、シェア10.5%だったことから1 年間で倍増した計算になる。

なお、統計上におけるLCC各社は以下の通り

韓国がチェジュ航空、ジンエア、エアプサン、イースター航空、ティーウェイ航空の5 社
日本はピーチ・アビエーション、エアアジア・ジャパン、スターフライヤーの3 社で合計8 社。

* 日韓路線就航中のLCC上半期シェアと就航状況(日刊航空より)

	2012	2013	日韓路線数
済州航空	4.4%	4.9%	6路線
エアプサン	2.5%	4.1%	3路線
ジンエア	0.6%	1.1%	3路線
イースター航空	1.5%	2.6%	2路線
ティーウェイ航空	1.2%	1.6%	2路線
小計	10.1%	14.4%	
スターフライヤー	—	1.2%	1路線
ピーチ	0.3%	2.9%	2路線
エアアジア・J	—	1.5%	1路線
小計	0.4%	5.6%	

(日刊航空)10/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

鹿児島 (->) 島空港、国際線供用チェックインシステム導入、空ビル提供は4空港目

鹿児島空港ビルディング(株)は24 日、国際線共用チェックインシステム(CUTE)の導入をはじめとする国際線旅客サービスの向上策について、10 月27日より実施すると発表した。

空港ビル会社が提供するCUTEシステムとしては、千歳/羽田/中部に続き日本で4 番目の設置となる。

(日刊航空)10/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)